

1 調査日 令和4年11月9日（水）～11日（金）

2 調査の概要

(1) 11月9日（水）

○沖縄県衛生環境研究所（沖縄県うるま市）

沖縄県衛生環境研究所は、沖縄県内における保健衛生、環境保全に関する科学的調査や研究を行う機関であり、平成29年に新興感染症や食中毒など、将来想定される県民の健康危機事案に的確に対応するため、最新の検査設備や機器を整えた施設として同県うるま市に移転整備された。

滋賀県においては、本県の衛生行政の科学的かつ技術的中核機関である衛生科学センターが築後約50年を経過し老朽化が進み、新たな感染症などに十分対応できる施設や高度な設備が備わっていないことから、本年度、整備基本計画を策定し、令和10年度からの供用開始を目指し取組を進めている。

については、本県整備の参考とするため、沖縄県の取組内容について調査を行った。



(2) 11月10日（木）

○瀬長島ウミカジテラス（沖縄県豊見城市）

瀬長島ウミカジテラスは、那覇空港から車で約10分の距離にある瀬長島に、2015年に開業した商業リゾート施設である。開業後、白い建物と目の前に広がる海が観光客に人気を呼び、県内有数の観光誘客施設となっている。瀬長島には、太平洋戦争後、米軍基地が置かれていたが、1977年に返還され、2005年に沖縄振興特別措置法に基づく観光振興地域に指定されたことを契機に、豊見城市が瀬長島観光拠点整備計画を策定し、観光拠点としての開発が進められた。

開発においては、瀬長島ならではの海のある景観や空港から近い立地を最大限生かし、民間企業の力を活用した整備が進められており、滋賀県における景観を生かした観光誘客施策の参考とするため、取組内容について調査を行った。



○首里染織館 suikara (沖縄県那覇市)

沖縄県は、国指定の伝統的工芸品数が、全国第3位の16品目と、全国有数の工芸品の産地である。首里染織館は、令和4年4月に首里城周辺地域の首里社地区に開館した、沖縄県における国指定伝統的工芸品である「琉球びんがた」および「首里織」の情報発信と伝統技術の次世代継承を行う拠点施設である。

同館は、組合員による次世代技術継承機能を有するとともに、来館者向けギャラリーやショップ、伝統工芸に携わる者と消費者を直接結び付ける交流型の体験工房などが併設されており、伝統産業の振興に向けた一体型の拠点となっている。

滋賀県においては、伝統産業を取り巻く状況が厳しい中で、各事業者が販路開拓や後継者育成など様々な課題を抱えながら事業活動を行っており、本県の伝統産業振興施策の参考とするため、取組内容について調査を行った。



○沖縄 I T 津梁パーク (沖縄県うるま市)

沖縄 I T 津梁パークは、沖縄県が観光・リゾート産業に次ぐ次世代の中核産業として情報通信関連産業の集積を行うため、2009年に同県うるま市に整備した企業集積拠点である。同拠点には、企業集積施設をはじめ、ソフト開発など知的創造活動を支援する中核機能支援施設、インキュベーション機能を有する企業立地促進センターなど6つの主要施設があり、企業誘致・集積、研究開発、人材育成などが一体として実施されている。

滋賀県においては、社会経済環境が大きく変化する中で、令和2年に『滋賀県産業振興ビジョン 2030』を作成し、「企業が集まる滋賀」、「実証実験のフィールド滋賀」を掲げ取組を進めており、本県における産業振興施策の参考とするため、沖縄県が行う企業集積戦略について調査を行った。



(3) 11月11日(金)

ONPO法人にじのはしファンド(沖縄県那覇市)

NPO法人にじのはしファンドは、沖縄県内の児童養護施設、ファミリーホーム、里親等のもとで養育を経験した子供たちの進学や資格取得を経済的にサポートする団体である。当団体は、社会的養護等で暮らしたことがある15歳以上の生活相談や就労支援を行う「アフターケア相談室にじのしずく」の運営や、子供の居場所をつくるための「にじの森文庫(子ども図書館)」、子ども食堂の運営、沖縄子どもの未来県民会議と協働した給付型奨学金事業等を実施している。

滋賀県においては、今年度、(仮称)子ども基本条例の検討が行われるなど、次年度に向け、子供を中心においた様々な施策構築が予定されており、本県における子供施策の調査審議の参考とするため、取組内容について調査を行った。

